



三島町次世代の議会（令和元年度三島中3年生）



- 3月定例会のあらまし P2～4
- 一般質問 ～議員が町政をただす～ P5～17
- 議会活動報告 P18
- 議会トピックス P19
- 議会の主な動き P20

3 月定例会 のあらまし

3 月定例会は 4 日から 9 日までの 6 日間を会期に開催され、7 つの条例の一部を改正する条例や、指定管理者の指定 2 件のほか、令和元年度一般会計及び特別会計補正予算、令和 2 年度一般会計及び特別会計予算など、町長より提出された議案を審議し、すべて原案通り可決しました。

議決結果一覧と条例改正等の主な概要

議案番号	議 案 名 等	結果
1	三島町振興計画審議会条例の一部を改正する条例 ●振興計画審議会の事務局を「総務課」から「地域政策課」に改正	可決
2	職員の給与に関する条例の一部を改正する条例 ●会計年度任用職員の期末手当を規定	可決
3	三島町集会所の設置及び管理運営に関する条例の一部を改正する条例 ●集会所新築による「大石田集会所」の追加	可決
4	三島町生活改善センター設置条例の一部を改正する条例 ●大石田集会所新築による「大石田生活改善センター」の削除	可決
5	三島町町道の構造の技術的基準を定める条例の一部を改正する条例 ●新設等の町道への「自転車通行帯」の規定を追加	可決
6	三島町宮下温泉事業条例の一部を改正する条例 ●宮下温泉の分湯使用料等の改正	可決
7	三島町路線バス条例の一部を改正する条例 ●満 75 歳以上町営バスの使用料を免除する改正	可決
8	指定管理者の指定について（早戸交流拠点施設：早戸温泉つるの湯） ●令和 2 年度からの指定管理者として、早戸温泉つるの湯企業組合を再指定	可決
9	指定管理者の指定について（三島町老人休養ホーム：ふるさと荘） ●令和 2 年度からの指定管理者として、有限会社宮下温泉栄光館を再指定	可決
10	令和元年度三島町一般会計補正予算	可決
11	令和元年度三島町国民健康保険特別会計補正予算	可決
12	令和元年度三島町簡易水道事業特別会計補正予算	可決
13	令和元年度三島町路線バス事業特別会計補正予算	可決
14	令和元年度三島町農業集落排水事業特別会計補正予算	可決

議案番号	議 案 名 等	結果
15	令和元年度三島町介護保険特別会計補正予算	可決
16	令和元年度三島町戸別合併処理浄化槽事業特別会計補正予算	可決
17	令和元年度三島町後期高齢者医療特別会計補正予算	可決
18	令和 2 年度三島町一般会計予算	可決
19	令和 2 年度三島町国民健康保険特別会計予算	可決
20	令和 2 年度三島町簡易水道事業特別会計予算	可決
21	令和 2 年度三島町路線バス事業特別会計予算	可決
22	令和 2 年度三島町農業集落排水事業特別会計予算	可決
23	令和 2 年度三島町介護保険特別会計予算	可決
24	令和 2 年度三島町戸別合併処理浄化槽事業特別会計予算	可決
25	令和 2 年度三島町後期高齢者医療特別会計予算	可決

【令和 2 年度当初予算の額】（単位：千円）

会計区分	R 2 予算額	R 元予算額	対前年比
一 般 会 計	2,527,000	2,648,123	△4.6%
国民健康保険特別会計	195,594	217,940	△10.3%
簡易水道事業特別会計	192,779	189,193	1.9%
路線バス事業特別会計	30,148	29,546	2.0%
農業集落排水事業特別会計	26,888	22,832	17.8%
介護保険特別会計	463,723	469,038	△1.1%
戸別合併処理浄化槽事業特別会計	49,165	46,790	5.1%
後期高齢者医療特別会計	34,419	31,958	7.7%

【令和2年度 重点事業】

令和2年度の各課の重点事業は以下のとおりです。

●総務課関係

今年度は特に、住民の生命・財産を守る防災対策事業に重点を置いて事業を進めてまいります。

- ・役場庁舎直流電源設備改修工事（繰越事業）
8,960千円
- ・町民センター耐震改修工事・工事監理
115,000千円
- ・防災行政無線デジタル化改修工事 225,632千円
- ・防災備蓄倉庫 7,780千円
- ・防災監視カメラ設置（大谷川・滝谷川）
5,500千円
- ・消防団浅岐班小型動力ポンプ積載車購入
6,800千円

●町民課関係

引き続き町民の健康増進につながる事業と、長年の課題となっておりました、滝原ごみ最終処分場廃止の恒久対策を4ヶ町村で進めます。

- ・滝原ごみ最終処分場恒久対策事業 12,000千円
- ・三島町元気で長生き推進事業 5,375千円
- ・不妊治療支援事業 750千円
- ・介護予防事業 2,194千円

●地域政策課関係

海外からの観光客の誘客とおもてなしを充実させ、空き家の解消、地区支援事業も継続して進めてまいります。

- ・観光交流推進事業（観光協会業務委託含む）
19,921千円
- ・台湾交流推進事業 10,700千円
- ・空き家・住宅改修費等補助金 11,250千円
- ・生活工芸村構想実践事業 14,496千円
- ・ふるさと会津工人まつり開催事業 6,602千円
- ・地区支援事業補助金 5,000千円

●産業建設課関係**〔農林関係〕**

間伐事業を進めるとともに、木の駅事業で木質バイオマスの利用啓発を図ります。

- ・大石田高尾原地内農道改良工事 11,000千円
- ・ふくしま森林再生事業 31,400千円
- ・地区要望に対応した森林整備 3,000千円
- ・木質バイオマス利用の推進、木の駅事業 2,735千円
- ・有害鳥獣被害対策 5,606千円

〔建設関係〕

道路の安全対策として早戸地区の落石防止対策を実施します。また、大谷バイパスの早期開通のため相続登記の支援を進めてまいります。

- ・町営住宅中平団地住環境改善事業 56,210千円
- ・町道寺沢四ッ田線他消雪整備事業（繰越事業）
51,770千円
- ・町道早戸居平台倉線落石発生源対策事業
66,000千円
- ・大谷バイパス支援事業 1,200千円
- ・大石田簡易水道施設改修事業 49,500千円
- ・大登飲料水供給施設上水道整備事業 49,500千円
- ・戸別合併処理浄化槽設置事業 15,843千円

●教育委員会関係

学校のICT環境整備と学校給食無償化を実施します。また、教員宿舎を改修し定住対策住宅として活用してまいります。

- ・公立学校情報通信ネットワーク環境施設整備事業（繰越事業）
13,001千円
- ・学校給食完全無償化 3,349千円
- ・複式補正教員配置 3,768千円
- ・特別支援教育支援員 3,339千円
- ・三島中学校体育館照明改修工事 9,000千円
- ・教員宿舎改修工事・工事監理 79,100千円
- ・荒屋敷遺跡出土品保存修理 7,867千円

質疑 令和2年度当初予算のあれこれ

●令和2年度一般会計当初予算質疑より（抜粋）

問 工人まつりの参加負担金が安いように思える。来場者数や規模を考えると値上げしても良いのでは。

答 出展料は町内6,000円、町外10,000円、飲食等の模擬店が町内外6,000円となっている。今後検討したい。

問 町民センター耐震改修工事はいつから始まるのか。大ホールを使用する方々が制約を受けているがそれらへの対応は。

答 4月中に入札を行い契約し、年度内完成を目指す。町民へは早めに周知し調整の理解と協力を得たい。

問 町の防災備蓄品に「マスク」、「アルコール消毒薬」も備蓄するようにした方がよいのではないか。

答 年度内に備蓄できるように検討する。

問 宮下駅周辺の環境整備の内容は。

答 案内看板を設置したり、観光客用の駐車場の整備を行う。

問 美坂高原は今後どのように活用していくのか。

答 平成28年度に策定した美坂高原検討委員会で作された計画をもとに活用を進めていく。具体的には、フラワーパーク等で集客できるようにしたい。

問 桐の里産業(株)に対する町民の目は厳しい。今後どのようにしていくのか。

答 水稻の受託を基本に、その他園芸作物も作りながら経営していく。町としてもしっかりと支援していきたい。

問 昭和村のかすみ草集出荷貯蔵施設（雪室）改修の負担金をなぜ出すのか。

答 雪室改修は奥会津4町村とJA会津よつばが協議して進めてきた。JAが1/2、残りを4町村で農家数等で案分して負担していく。雪室を活用して、さらに町内のかすみ草農家を育成していくため負担した。

問 テレサ・テンに関する事業はどのように進めていくのか。

答 今年没後25周年にあたり、3月17日が訪町記念日になる。モニュメントの作成や台湾等への海外向けのPRにも力をいれていきたい。

問 荒屋敷遺跡出土品の修理はどのように行うのか。

答 発掘から30年以上が経過し、傷みが出てきているものがあるので、県の文化財課、県立博物館と相談しながら、専門業者に委託して補修していく。また、レプリカも作成する予定である。

問 学校給食費が無償化となるが柳津町も同様に行うのか。子どもに関するもの全て「タダ」でよいのか。親が負担すべきものは負担すべきである。

答 柳津町も令和2年度から無償化する。子どもに関するもの全て「タダ」というわけではない。負担すべきものは負担してもらっている。

【令和元年度補正予算】（単位：千円）

会計区分	補正予算額	補正後の予算額
一般会計	△ 122,698	2,868,910
国民健康保険特別会計	△ 11,761	206,220
簡易水道事業特別会計	△ 1,664	194,901
路線バス事業特別会計	500	30,046
農業集落排水事業特別会計	0	22,832
介護保険特別会計	170	490,781
戸別合併処理浄化槽事業特別会計	975	47,765
後期高齢者医療特別会計	△ 1,608	31,277

○令和元年度一般会計補正予算の主なものは次のとおりです

- ・ 役場庁舎町民センター耐震改修設計業務
△1,253千円
- ・ 情報通信施設管理費
△11,313千円
- ・ 老人休養ホームトイレ改修工事・工事監理
△3,249千円
- ・ 電子商取引対応機器導入補助金
△911千円
- ・ 中平団地住戸改修工事
△9,894千円
- ・ 上の原団地整備工事・工事監理
△16,496千円
- ・ 防災行政無線デジタル化改修工事
△15,142千円
- ・ 公立学校情報通信ネットワーク環境施設整備事業
12,701千円

一 般 質 問

～議員が町政をただす～

3月定例会では5人の議員が一般質問を行い、町政全般について活発な議論を交わしました。（6頁～17頁に掲載）

一般質問議員		質 問 事 項	頁
1	7番 青木 喜章	①第4次振興計画の検証について	6
		②職員の教育・研修について	
2	8番 二瓶 俊浩	①三島町地域循環型共生圏推進協議会について	10
		②高齢者福祉の充実について（買い物弱者対策）	
3	5番 小柴 正洋	①人口減少による自治体の消滅について	12
		②循環型コミュニティについて	
		③新型コロナウイルスについて	
4	6番 長谷川 清雄	①中山間地域等直接支払交付金事業について	14
		②JA会津よつば三島町加工場について	
5	2番 矢澤 昇	①水不足対策について	16
		②三島町次世代の議会について	
		③生活工芸アカデミー生に対する支援について	

※一般質問とは…議員が町の将来に対する方針や、執行機関の政治姿勢を明らかにし疑問点等を質します。また、議員自ら政策の提言を行います。三島町議会は1人60分の持ち時間の間に質問答弁を行います。

※一般質問は通常議会初日に行われます。





青木 喜章 議員

第4次振興計画の検証について

答 しっかりと検証し、第5次振興計画に反映していく

議員 第4次振興計画

は令和2年度が最終年度となり、第4次の検証・評価方式検討が進められ、第5次振興計画の策定の準備に入るところだと思います。そこで第4次計画で進め

られた事業について伺います。

①人口減少を抑えるための施策として、第1次産業再興プロジェクトの農業・林業部門での雇用拡大を図るため町出資株式会社を設立しました。しかし桐の里産業株式会社、会津桐タンス株式会社とも厳しい経営状況にあります。

今後、耕作放棄地の増加・後継者不足さら

には桐の里三島を考え

るとき、2つの会社は無くしてはならないと思います。この厳しい経営環境を改善するために町はどのような支援をする考えか伺います。

②再生可能エネルギー振興プロジェクトについては地域循環共生圏推進協議会が設立さ

れました。今まで何回となく話し合わせ、ようやく実現しそうで喜んでいます。地域資源と地域経済の循環は町の雇用と経済に大きく貢献するものと期待しています。資源供給・再生エネルギー利活用の部分については予算的なものがクリアでき

れば事業可能と思われる

ますが、川上側森林活用部分での合意形成が非常に重要になると予想されます。全国的に森林は、未登記、不在地主、境界不明確さらに国土調査が行われて

いません。新たな森林管理制度などについて早急に森林所有者に周知し、速やかな合意形成・協力体制をとらな

ければ素材の安定供給には結びつかず、循環型社会の構築にはなら

ないと思います。三島の単位所有森林は大きくもなく境界も複雑です。しかし、この問題を解決しないと循環型社会、さらには公共

工事にも影響します。

今後の取り組みを伺います。

③観光施設修繕、設備更新ということですが、今後3年間は整備計画の予定が無いよう

ですが、インバウンドの受け入れ体制整備を図ることに矛盾して

ないか。

④福島県の新年度予算で、新しい人の流れづくりとして奥会津地域活性化推進事業として1千800万円が計上されていきますがどのよう

な内容か。

ます。伝承生について

は2年の研修を終えれば独り立ちするわけですが、ものづくりの時間になかなかとれない

とか、生活工芸以外の手伝いを頼まれるとの話を聞きます。3年目以降の町からのフォロー

や伝承生制度の確立について伺います。

町長 現在各課で検証作業を行っています。今後評価を取りまとめ策定委員会において最終確認の後、次期計画の方向性を検討するデータベースとします。

しっかりと検証し、次期計画に反映していきます。

第1次産業の振興を図るうえで重要な会社であると認識しています。

桐の里産業株式会社

については、農業者の高齢化と後継者不足による耕作放棄地の解消を図るため、平成27年度に設立され、現在は社員2名、地域おこし協力隊1名、臨時職員1名の4名で運営しています。令和元年度は前年度に比べて収量と売り上げがともに増えています。令和2年度は新たな作物の栽培と新たな業務を受託することにより会社の体制強化を図りながら収入を確保し、町からの補助金軽減と雇用の増に努めていきます。

会津桐タンス株式会社については、町の特産品である会津桐が原木のまま県外に移出され、原木を加工し、製品にするこ

とで付加価値をつけ、地場産業振興と経済の活性化を図るべく、昭和59年度に桐加工工場を整備しました。現在8名の社員と地域おこし協力隊1名の9名で運営しています。

今後は、中小企業診断士の経営診断を受けながら、経営改善への取り組みと桐タンス以外の新商品開発を進め、新たな展示販売会に参加しながら、製品販売とPR活動を進めて桐の里三島町にふさわしい会社運営と雇用の確保を図っていきます。

②協議会の下部組織、森林活用委員会については、各地区から地域林業に詳しい委員を選出し、協力体制を整えていく考えです。

令和元年度に新たな森林管理制度と森林環境譲与税を創設しましたので、これらの制度

と財源を有効活用していきます。また、ふくしま森林再生事業についても、令和3年度以降の事業継続が決定しており、事業を進めるうえで、よい環境になっていると考えます。

議員ご指摘のとおり、町民の高齢化により、森林所有者や所有境界の把握は年々困難になっています。現時点で、ある程度の境界が把握できた場合は間伐実施に伴う現地測量により今後の所有境界の管理が明確になると考えます。また、間伐材の販売により森林所有者への収益が期待できることをPRすることも重要と考えます。

今後は委員会でも年次計画を策定し、その後各地区で説明会を開催して、森林所有者との信頼関係を構築しながら進めていきたいと

考えます。

事業実施により発生した間伐材については、用材として売れる丸太は市場で販売し、用材にならない丸太はバイオマス燃料とすることで安定供給できる体制を確立していきたいと考えます。

③本年度、ふるさと庄改築等検討委員会を設置し、講師を招いて検討を始めたところで

議員ご指摘の整備についてですが、振興計画の実設計画である3年間の建設計画に計上されていないとのこと指摘だと思いますが、財源確保等の課題から10年間の次期振興計画期間中の改築を目的としているところであり、検討委員会の中でスケジュール等も協議していく考えです。

④只見線利活用計画

に基づく奥会津景観整備プロジェクトの主要事業である「奥会津の地域資源である只見川沿川の四季折々の美しい景観を活かし、只見線利用者が途中下車により眺望できるビュースポットを整備し、新たな観光拠点の創出を図る」事業です。令和元年度から3千900万円の予算で取り組み、令和2年度は1千800万円計上しています。

令和元年度の具体的な事業箇所は、滝谷川橋梁、只見川第2橋梁のビュースポット整備及び大志地区（金山町）の遊歩道整備で、令和2年度は只見川第4橋梁（金山町）付近と塩沢地区・蒲生地区（只見町）の伐木を計画しています。

現在、只見線利活用計画の中で沿線市町が実施する事業を計画し



第4次振興計画、今年度最終年度となります



第4次振興計画の「地区の目標」、昨年度新たな計画を全地区で策定しました

ていますので、町としても連携して取り組んでいきたいと考えています。

⑥平成29年度の1期生4名を迎え入れてから現在まで計13名のア

カデミー生を受け入れてきました。うち、1期生と2期生から伝承生として3名の方が現在三島町に定住しています。現状としては、議員ご指摘のとおり、

ものづくりの時間がなかなか取れない状況となっています。伝承生として町の編み組細工を後世に受け継げる担い手として今後も引き続き、編み組

に従事できる体制を整えるため、当初2年間の予定であった伝承生期間を4年に延長し、町の一職人として編み組細工に専念できるよう業務にあたっている

ます。また計4年間の伝承生期間を終了するまでには、編み組指導員として、奥会津編み組細工の技術を指導できる立場になることを目指し、材料の採取か

ら製作までの業務を日常的に実施していきたいと考えています。

職員の教育・研修について

答 研修と日常業務をとおして職員教育に努める

議員 他町村において職員の職務内容の不祥事が新聞報道されています。三島町において

は大きな不祥事は聞かれませんが、報・連・相不足なのか不祥事が聞かれます。また長期離脱・リタイヤも見られます。町民は役場職員を見えています。どのような人事管理・人事教育をしているのか伺います。

く、会津一円の市町村が様々な人材育成の課題を抱えているところです。私が非常に大切にしているものは、職員個々人の資質の向上と職員間の連携やチーム三島として仕事を

に届いていないのではないかと反省しています。町づくりの基本は「人材の育成」であり、人を大切にする組織は、将来の展望があると考えます。1人で出来る事には限度があります。チーム三島として、どのような戦略を立てて地方創生を実現していくのか脳裏を離れる事はありません。

桃太郎は、鬼ヶ島の鬼退治にキジと犬と猿を連れて行きました。桃太郎の見事なマネージメントに感心させられました。鬼との戦いに勝つために、鬼ヶ島全体を俯瞰できるキジ、つまり情報収集です。犬は勝つための行動力、猿は知恵であります。この3点がそろうことにより鬼に勝利したのです。行政全体のマネージメントにおいてもそのような組織をつくりあげ、町民の皆さまの幸福のために頑張っ

仕事以外でも自己研鑽に努め、幅広い知識教養技術を身につける事が求められます。地方公務員として最も重要なことは、全体の奉仕者として町民の皆さんの信頼を得て、真に尊敬される公務員となるためには、使命感と倫理観が絶対条件といっても過言ではありません。

町長 議員ご指摘のように、当町ばかりでな

は変化球で述べる癖があるので、職員の皆さま

鬼退治にキジと犬と猿

の幸福のために頑張っ

が求められます。また

の業務に埋没することなく無為に過ごすので

町長 議員ご指摘のよう

は変化球で述べる癖が

鬼退治にキジと犬と猿

の幸福のために頑張っ

が求められます。また

の業務に埋没することなく無為に過ごすので

町長 議員ご指摘のよう

は変化球で述べる癖が

鬼退治にキジと犬と猿

の幸福のために頑張っ

が求められます。また

の業務に埋没することなく無為に過ごすので

なく、初心に立ち返り、職員同士の連携による職場の雰囲気づくりなどを通じて、使命感や倫理観を自覚し、それを持ち続けることが大切であります。

組織は人材であると言われていますが、そのためには実務処理能力、行政目標推進能力、そして自己管理能力の向上等が上げられます。そのために様々な研修を受けていますが、一部の不手際があると、公務員はという全体のレッテルになりますので職員には十分に指導していきます。

地方創生は「地方分権社会の構築」であると考え、一人一人の能力向上が求められています。また、分権社会における地方公務員像は幅広い知識の習得にあります。常に向上心を持ち、公務員として

以前に、人としてあるべき姿が重要です。人として成長していく事は、ひいては町民の信頼を得ることにつながります。

新規採用職員前期・後期を各5日間、採用後4年目の政策形成や交渉力能力向上を狙いとした基礎力アップ研修3日間、採用後8年目の応用力アップ研修3日間、新任係長研修、新任管理者研修、新任課長研修を必須研修とし、そのほか選択研修として必要に応じ、メンタルトレーニング、クレーム対応、危機管理、地方会計、法制執務など専門分野の研修についても県職員、他町村職員と一緒に受講しています。

また、福島県との人事交流も合わせ実施しており、職員の状況に合わせ、研修を受けて

いるところです。

今般、議会からのご指摘がありました「コンプライアンス・公務員倫理研修」については、3月19日に、ふくしま自治研修センターより講師をお招きし、全職員に受講させる予定です。

このような研修のほか、日常の業務をとおりして、管理職員により職員に対して指導しているところですが、

しかし、議員ご指摘のような細かな不手際により町民の皆様にご迷惑をおかけしている点もあることから都度、必要に応じて職員教育に努めていきます。



町職員の公務員倫理研修（令和2年3月）



二瓶 俊浩 議員

三島町地域循環型共生圏推進協議会について

答 収益が維持できる仕組みづくりを慎重に進める

議員 新聞等で三島町循環型コミュニティー構築と言う記事が最近頻繁に出ています。木材チップ化施設やバイオマス発電施設に町が大口出資をして運営の中心となるとのこと

です。数年前には野菜・パウダーの研究及び商品開発により農業所得の向上と町の雇用創出、遊休農地の解消ということとで約750万円を委託業者に支払い事業を始めましたが結局運営に至らなかった。なぜ運営に至らなかったのかは考えたのかと言わざるを得ない。

また私は木の駅事業（工芸館の薪ボイラー）の燃料となる薪にかか

る経費等について3回連続で質問してきました。冬期間だけで今までの4倍の経費が掛かるとの事です。このよう

な事がある中で、今町が構築しようとしている事業はとてつもなく莫大な経費が掛かるのと長期的な供給等いろいろな意見が出てくると思いますが、町と議会との協議でも説明がありませんか、森林所有者や地域の方々に説明がありません。この事について町はどう考えているのか、またこの事業についての考えを伺う。

また、2018年に専門業者に委託して実施した採算調査による

と黒字になるとの記事であります、根拠は何か。

町長 地域循環型共生圏推進協議会については、三島町の森林資源の活用と公共施設等の設備更新に併せ、再生可能エネルギーの導入

を目標として、地域の林業事業者や施設管理者等をメンバーとして発足した「地域が一体となって取り組むための協議会」です。木質バイオマスエネルギーを活用して公共施設等に対する熱供給や冷暖房の供給と併せて発電を行うことで、地域内の森林資源の活用が図られ、これまで動きがなかった森林の活用

に結び付けることができるとは思いますが、川上から川下まで一体的に検討を進めながら準備委員会を通して協議会の設立に至ったところ

です。しかしながら、議員ご指摘のように事業化のためにはまだまだ多くの課題がありますので、これから協議会の中で具体的に検討を重ねていきます。

2018年に実施しました調査事業は、民間企業が事業実施主体として町は共同申請者として「福島県スマートコミュニティー構築支援事業」の補助採択を受け、福祉施設等への再生可能エネルギー導

入の可能性調査を行ったものであります。調査結果においては、「発電と施設への熱供給を行い、電力固定買取制度を活用しながら黒字化も可能である。」との報告を受けたところ

です。しかしながら、森林整備による材の供給をどのように進めるのか大きな課題であり、事業実施に当たっては、当該問題を含めて検討を重ねる協議体制が必要であることから協議会設立への足掛かりとした次第です。

いずれにしても、事業実施に当たっては相

当な費用が発生するものと考えますので、経営リスクも含めしっ



第1回地域循環型共生圏推進協議会

高齢福祉の充実について（買い物弱者対策）

答 民間事業者・関係団体と可能な方法から取り組んでいく

議員 町長は新年のあいさつで福島民報社を訪れた際に「高齢者福祉充実に向け買い物弱者対策を進めたい」と話された記事が掲載されました。

県内の高齢化率3番目（53.4％）である当町にとっては重大な問題であります。商店が減るところか、無くなるのではないかというのが当町の現状であり、当然移動販売車も少なくなっています。

また高齢化が進むにつれ移動販売車のところまで出て行けないとの声も聞かれます。この買い物弱者対策こそ早急に進めなければならぬと考えますが、町はどのような対策を

進めるのか伺います。

町長 以前より「高齢者の買い物支援」の対応策を検討しているところです。議員も危惧されていますように、三島町は急激に高齢化が進み、1人暮らし、2人暮らしの高齢者世帯が増加しています。移動販売車もかつては町内で3業者が運行していたものが現在は1業者となっている状況から様々な観点で対応をすべきと考えます。

まず1点目は「買い物支援バスの運行」です。昨年に町社会福祉協議会で「買い物支援バス」を試験的に運行しましたが利用者は1名でありました。少なかった理由は周知の

方法が町のお知らせ版のみであったことが大きな要因であったと聞いていますので、高齢者の方々などから具体的な要望をお聞きしながら町社協と協議し、

改善していきます。また、町外への移動としての広域交通については、会津地域全体の共通課題として、「会津地域課題解決連携推進会議」で協議を始め



移動販売車で買い物をする高齢者

ますので、この動きにも注目していきたいと考えています。合わせて、町営バスについても令和2年度から75才以上の町民の方については無料化にしていく予定です。

2点目は「移動販売車」です。現在町内の移動販売業者は1業者のみですが、このほかにも確認できている業者は近隣町村から3業者（生協、かねか、セブンイレブン）などがあります。

現在の町内の移動販売車と連携して、町内の商店等の商品などを届けるシステム作りを検討し、地域内経済循環へ繋げていきたいと考えています。

3点目は「宅配」です。議員ご指摘のように買い物へ出掛けるのも大変な方もいらっしゃるようですので、かつての「御用聞き」のようなシステムで注文を受け、高齢者の見守りと合わせた配達も有効な手段かと思っています。

いずれにしても、「買い物弱者対策」は行政が行うものと民間事業者が実施するものの複数の事業を組み合わせることが重要かと思えますので、関係する事業者や団体と協議しながら実現に向け、可能な方法から取り組んでいきます。



小柴 正洋 議員

人口減少による自治体消滅について

答 住民福祉を向上しながら住みたい、住み続けたい町の実現を目指す

議員 20年後の令和22年に全国の896市町村が消滅の危機に直面すると日本創成会議が発表した。福島県は災害により、この時点での推計の対象外となつてい

ますが、わが町は消滅の危機に直面することは必至であります。そこでわが町の存続に今後、何をすべきか、何をしていくのかを伺います。

一番の減少率となっております。2020年1月1日現在の推計人口は1千487人であり、町人口ビジョンのシミュレーションと同等の人口動態となつてい

る。人口においては東京一極集中が是正されることは考え難く、中山間地域の人口減少はさらに進むものと考

えます。このような中でどのような政策を進めていくかとのご質問については、「人口を増やす政策」に加え「人口が減少しても住民福祉が損なわれない政策」が必要であるとともに、事業の選択と集中により効率的かつ効果的な行政運営が必要であると考

えます。具体的には、安心して子供を産み育てられる環境の整備や雇用の場の創出、人口減少とともに増え続ける空き家の利活用による移住定住施策などが挙げられます。また、健康でいきいきと暮らせるような健康づくり、森林や環境整備と合わせた再生可能エネルギーによるエネルギー自給体制の構築、人材育成と

ますが、わが町は全国市町村人口減少率ランキング（15年～19年）で103位に入り、隣接村の中では一番の減少率であります。このこと

町長 議員ご指摘のとおり2015年10月1日から2019年10月1日までの4年間の人口減少率は10.25%と、奥会津5町村の中では

最も低率となっております。このように人口減少が続く中で、住民の生活の質を向上させ、住み続けたい町を実現していくためには、安心して子供を産み育てられる環境の整備や雇用の場の創出、人口減少とともに増え続ける空き家の利活用による移住定住施策などが挙げられます。また、健康でいきいきと暮らせるような健康づくり、森林や環境整備と合わせた再生可能エネルギーによるエネルギー自給体制の構築、人材育成と

安心して子供を産み育てられる環境の整備や雇用の場の創出、人口減少とともに増え続ける空き家の利活用による移住定住施策などが挙げられます。また、健康でいきいきと暮らせるような健康づくり、森林や環境整備と合わせた再生可能エネルギーによるエネルギー自給体制の構築、人材育成と

安心して子供を産み育てられる環境の整備や雇用の場の創出、人口減少とともに増え続ける空き家の利活用による移住定住施策などが挙げられます。また、健康でいきいきと暮らせるような健康づくり、森林や環境整備と合わせた再生可能エネルギーによるエネルギー自給体制の構築、人材育成と

安心して子供を産み育てられる環境の整備や雇用の場の創出、人口減少とともに増え続ける空き家の利活用による移住定住施策などが挙げられます。また、健康でいきいきと暮らせるような健康づくり、森林や環境整備と合わせた再生可能エネルギーによるエネルギー自給体制の構築、人材育成と

循環型コミュニティーについて

答 持続可能な地域社会の構築を目指す

議員 町は、先の新聞に木質バイオマス発電で収支の黒字化が可能だと結論づけ木質バイ

オマス発電による地域循環型スマートコミュニティーの構築を目指すと発表されましたが、

それはあまりにも安易すぎて理解できない。その意図を伺います。

町と民間企業との共同申請により、福島県スマートコミュニティー構築支援事業の採択を受

け、当町における木質バイオマス等地域資源を活用したエネルギーの地産地消システムの構築に向けた基礎調査を実施しました。

その報告書の中で木質バイオマスによる熱利用と発電を組み合わせた形態が最も事業継続可能であるとの調査結果を受け、その実現を目指し行政と民間事業者が協働で実施していくための協議の場として協議会を設立した

とあります。今後、事業構築に向け、山林所有者や地区との話し合

いや林業事業体による施設計画策定、エネルギー導入施設の検討等

具体的に協議していきます。まだまだ具体的な事業化には至りませ

んが、地域の資源と経済の循環による持続可能な地域社会の構築を

目指し進めていく考えです。

新型コロナウイルスについて

答 必要な情報を随時提供し、感染予防に努める

議員 日本での流行は5月までと予測されている中で、我が町にも

町内観光施設「観光協会」や「みしま宿」などに保健師が直接出向

施設等については消毒などの徹底を図っています。

置し、さらなる予防と対策に努め、28日には今後開催予定の各種団

客が訪れています。どのように感染するかからこのウィルス

起を行い、町内各宿泊施設「ふるさと荘」や「栄光館」などには注

り対応指針が発表された内容を防災無線と併せて全戸に配布しまし

ました。役場内においても、部外者の不要な入室禁

止、室内換気、職員の

県外出張の禁止、不要

な県外への外出を避けるなどを実施していま

す。

尚、ご本人やご家族

で感染を疑われるような場合は、まずは会津

保健福祉事務所内の「相談センター」や役

場保健福祉係に連絡し

ています。

また、文部科学大臣

より新型コロナウイルス感染症対策についてメッセージが発信されました

ので、学校を通じて、メッセージを保護者に配布しました。

今後、これまでの

感染対策と同様、子どもたちの健康維持に向けて、正確な情報のもと、各家庭と協働しながら感染防止に努めて

いきます。

また、文部科学大臣

より新型コロナウイルス感染症対策についてメッセージが発信されました

ので、学校を通じて、メッセージを保護者に配布しました。

今後、これまでの

感染対策と同様、子どもたちの健康維持に向けて、正確な情報のもと、各家庭と協働しながら感染防止に努めて

いきます。

また、文部科学大臣

より新型コロナウイルス感染症対策についてメッセージが発信されました

ので、学校を通じて、メッセージを保護者に配布しました。

今後、これまでの

感染対策と同様、子どもたちの健康維持に向けて、正確な情報のもと、各家庭と協働しながら感染防止に努めて

いきます。

また、文部科学大臣

より新型コロナウイルス感染症対策についてメッセージが発信されました

ので、学校を通じて、メッセージを保護者に配布しました。

今後、これまでの

感染対策と同様、子どもたちの健康維持に向けて、正確な情報のもと、各家庭と協働しながら感染防止に努めて

いきます。

また、文部科学大臣

より新型コロナウイルス感染症対策についてメッセージが発信されました

ので、学校を通じて、メッセージを保護者に配布しました。

今後、これまでの

感染対策と同様、子どもたちの健康維持に向けて、正確な情報のもと、各家庭と協働しながら感染防止に努めて

いきます。

また、文部科学大臣

より新型コロナウイルス感染症対策についてメッセージが発信されました

ので、学校を通じて、メッセージを保護者に配布しました。

今後、これまでの

感染対策と同様、子どもたちの健康維持に向けて、正確な情報のもと、各家庭と協働しながら感染防止に努めて

いきます。

また、文部科学大臣

より新型コロナウイルス感染症対策についてメッセージが発信されました

ので、学校を通じて、メッセージを保護者に配布しました。

今後、これまでの

感染対策と同様、子どもたちの健康維持に向けて、正確な情報のもと、各家庭と協働しながら感染防止に努めて

いきます。

また、文部科学大臣

より新型コロナウイルス感染症対策についてメッセージが発信されました

ので、学校を通じて、メッセージを保護者に配布しました。

町としては1月末に

町としては1月末に

町としては1月末に

町としては1月末に

町としては1月末に

町としては1月末に

町としては1月末に



感染予防のため
こまめに手洗いを！



長谷川清雄 議員

中山間地域等直接払交付金事業について

答 制度の内容を地区説明会等でお知らせしていく

議員 平成12年4月から始まりましたこの事業も4期目を終えました。この事業の関係者は耕作放棄地解消のため、一致協力してこれまでの20年間この事業を推進してきました。

令和2年より新たに5年間継続、実施することになります。三島町においては農業をやめる人が増え、それ

に比例して今後耕作放棄地が増加することが懸念されます。前述の理由等により、5期目途中の2～3年等で出来なくなってしまう場合、その実施団体に支払われた交付金の返還が国、県、町から求められるのか伺います。

産業建設課長 農業生産活動は水源かん養や土砂崩れを防ぐ、美しい風景を守るなど広く国民全体に及ぶ効果をもたらしています。その活動を継続するため国 $\frac{1}{2}$ 、県 $\frac{1}{4}$ 、町 $\frac{1}{4}$ の事業負担割合で支援しており、令和2年度から新たな第5期対策が始まります。

前期計画の実績では 町内の12地区において農地65.4ha、参加者延べ259名となっていました。

第5期計画の協定の取りまとめについては令和2年度に予定していますが、前期計画の面積維持を目標に取り組みたいと考えています。

ご質問の5年間の協定期間中に農業生産活動等が行われなくなつた場合には、原則として協定の認定年度に遡^{さかのぼ}って該当する農地の交

付金を返還して頂くこととなります。前期計画では協定期間中に1人でも農業生産活動をやめた場合には、その実施団体に交付された全ての交付金については返還対象となつていますが、第5期計画からは緩和されます。

合は免除する等の緩和措置もありますので、今後地区説明会等で詳しく説明したいと考えています。

J A会津よつば三島町加工場について

答 J A会津よつばと運営継続について協議していく

議員 東日本大震災による原発の放射能等の風評被害により、三島町加工場の事業損失が

多いことなどから、加工場を廃止する話があると聞きました。

J Aの大規模合併前

より、三島町民の雇用と特産品の加工販売の基幹の一つに貢献してきた施設の突然の廃止

話は、現在どのようになっているのか伺います。

町長 山菜加工場は、

(旧)三島町農業協同組合が川井地区に昭和45年度に整備し、町の特産品として昔から親しまれており、地元雇用にも繋がっている重要な施設であります。

J A会津みどりとし

て合併する際は、施設が老朽化し、三島町農業協同組合としては整備費が多額であり、独自で整備できないことから、平成13年度に町が事業主体として現在の施設を整備し、指定



JA会津よつばの山菜加工品

管理者としてJA会津よつばが、施設を管理運営しています。

平成15年度は売り上げが約1億5千万円で約2千500万円の黒字でありました。しかし、東日本大震災後は、毎年600万円から1千300万円程度の赤字の状態が続いています。JA会津よつばでは、毎年2月に管理運営委員会を開催して、新商品開発や売り上げ増加について、山菜加工場の経営改善を検討してきました。

今年2月4日に開催された管理運営委員会において、JA会津よつばから「組織の事業改革が求められており、このままでは山菜加工場の廃止を検討せざるを得ないので、町から山菜加工場への支援をお願いしたい。」との要請がありました。

町としては経営改善と売り上げ増加による施設の運営継続をお願いし、中小企業診断士による山菜加工場の経営診断、補助事業導入による新商品開発の検討等について、積極的に支援していく考えです。

また2月13日にはJA会津よつば組合長から「令和2年度の指定管理については、町からの赤字補填がないと継続は難しい。」と再度要請がありました。

JA会津よつばと協議を進め、今後2年間については町からの赤字補填と新たに加工品経営アドバイザーの派遣による山菜加工場の経営改善と売り上げ増加を図りたいと考えています。また令和4年度から新たな体制での山菜加工場の運営を目指していきたいと考え

ています。

山菜加工場は東日本大震災後の風評被害の影響があることから、これまでの山菜加工場の賠償請求等の状況を早急に精査しながら、JA会津よつばと赤字補填の試算額の協議を進め、その結果に基づいて、議会の皆様と協議しながら、JA会津よつばと今後の支援策の協議を進めていきたいと考えています。

議員のご指摘のとおり山菜加工場は、町の特産品の生産販売施設であるとともに、従業員12名を抱える貴重な地場産業ですので、今後の運営継続を確保していきます。



矢澤 昇 議員

水不足対策について

答 速やかに対処できるような体制を整えておく

議員 今年は例年になく降雪量が少なく、積雪もほとんどありません。今後のことを考えると水不足が懸念され、生活用水はもとより、農業用水の不足は水稲・畑作へ大きな影響を与えます。

要があると思います。生活用水の確保、農業用水の確保について、どのような対策をお持ちでしょうかを伺う。

町長 今年1月まで積雪がない状況が続く、2月の雪と火のまつり直前に降雪があったものの、例年の1m程度の積雪に比べると今年は非常に少ない状況で、

今後の水不足が懸念されます。

生活用水については、現在のところ降雪の代わりに降雨があるため、特段問題は発生していませんが、水道施設の点検調査を強化して漏水や故障等のないよう安定した飲料水の供給に努めていきます。

また、常に水道監視システムで各地区の配水池等の状況を確認するなど、水量が足りなくなった場合は速やかな給水活動が出来る体制をとっていきます。

助金交付要綱に基づき町が渇水対策本部を設置した日から、ポンプや燃料費等の対象経費の50%以内で上限3万円まで補助が可能となります。

なお、この他の対策についても速やかに対処できるよう生産者や関係機関と連携を密にしていきたいと考えます。

令和2年度当初予算に渇水対策補助金として30万円計上しました。平成30年度に制定した三島町渇水対策事業補



水不足に備えたため池（西方地区）

三島町次世代の議会について

答 特色ある授業の一つとして継続できる支援を行う

議員 1月30日に三島中学校3年生による初めての「三島町次世代の議会」が開催され、中学生とは思えない真

剣な議論が交わされ、大変頼もしく感じたところでした。

次代を担う子ども達に、今後も継続して町

政に関心を持っていた

だけでなく、毎年継続して開催すべきと考えます。

また、この議会を通

して、自分たちの町は

自分たちで造り上げていくという「主権者教育」も大切だと考えま

す。

教育長 三島中生による議会は「社会的な様々な事象を多面的・多角的に捉えて考察する。」という第3学年

社会科の目標にそい、公民の授業の中で取り上げて学習を進めました。さらには、総合的

な学習の時間や学校行事で学んできた「防災教育」「健康安全教育」「職場体験」等が三島町の将来についての考

えをまとめる素材となったことは確かです。議会の様子について

は、広報みしまに掲載

してより多くの町民の方々に見ていただいています。三島テレビでは3月には放映される予定です。傍聴された方々から賞賛の声が学校や教育委員会にも届

いています。

また、学校からも、「町のいろいろな方々に支えられて育ってきた子どもたちには故郷への愛情や誇りがすでに育っていると感激し

た。」など、目標の達成により近づいた反省の言葉が多く聞かれ安堵しているところです。さて、次年度からの開催実施については学校の計画や意向に委ね

ることになります。1年での「郷土再発見学習」から2年「地域社会での体験学習」を経て、3年での学習のまとめの発表の場としての「次世代の議会」

と、三島小6年生による「三島町の未来への提言」とあわせて、三島町内小中学校の特色ある授業の一つとして継続できるよう、可能な限り指導・支援をし

ていきます。また、この学習が社会の構成員の一員として主体的に担う力を育む主権者教育の推進にもつながることを願っています。

生活工芸アカデミー生に対する支援について

答 住み続けられるよう住居と生業の支援を行う

議員 まもなく終了する第3期生全員が定住を希望している事を聞き、大変喜ばしいこと

と思っています。また、来年度の第4期生の申し込み及び選考状況についても伺う。

しかし、継続して三島町に住んでいただくためには、生活基盤が大切だと考えます。住居、収入等様々な面で三島町で生活するためには、目先のことだけでなく、長く住んでいただくための支援やアドバイス等をどのよう

に行っているのか。また、考えているのか同生の業務にあたり収入を得ている状況です。工芸村構想の中では、編み組細工+aで自活

できるような目標を設定しましたが、まずは編み組の技術を磨き、年間の製作並びに販売収入等の目途を立てていけるよう、延長した2年間の伝承生期間の中で確かなものにしていただく考えです。

また、伝承生以外でも個人のスキルを活かし2期生のうち2名の方が町内に定住しています。このようにアカデミー生として当町に移住された方々が、伝承生とならずとも引き

の意欲と定住の見込める3名の方に合格通知を出したところですが、1名の方が辞退されたことにより、次年度のアカデミー生は2名となる見込みです。

いずれの方も、編み組細工や田舎暮らしに強いあこがれを持ち、希望と期待を持ってアカデミー生として移住する予定となっています。

町長 平成29年度の1期生を迎え入れてから現在まで計13名のアカデミー生を受け入れてきました。うち1期生と2期生から伝承生として3名の方が現在三島町に住居を構えています。現状、編み組細工のみでの収入で自立することは難しく、町

も個人のスキルを活か

また、次年度の4期生の応募並びに採用状況ですが、4名の応募があり書類審査の1次選考、面接での2次選考を実施し、編み組へ

また、次年度の4期生の応募並びに採用状況ですが、4名の応募があり書類審査の1次選考、面接での2次選考を実施し、編み組へ



伝承生としてさらに技術向上を目指します

三島町議会が全国町村議会表彰を受賞

全国町村議会議長会第71回定期総会において三島町議会が、「政策づくりと監視機能を十分に発揮している議会」、「住民に開かれた議会」という観点から、全国の町村議会の模範となる活動を行っているとして、全国町村議会表彰を受賞しました。

三島町議会は県内でも先駆けて、人口規模に見合った議員定数の削減を行いながらも、議会機能を十分に発揮してきたこと、毎年町有施設の調査を行い、町執行部に対して改善すべき点を指摘し改善させていること、また、地区座談会へ全議員が交代で全地区へ参加し、直接住民の声を聞きそれを政策へ反映させるなどの活動が評価されたものです。



表彰状を手にする五十嵐健二議長

議会活動報告 ▶ 福島県町村議会議員研修会に参加

1月27日、郡山市のビックパレットふくしまで県町村議会議長会主催の研修会が行われました。この研修は、例年秋に行われていましたが、台風19号の影響により開催が延期されていました。

講師の自治通信社解説委員の山田恵資氏からは「日本の政局・政治の行方」として、国の政治の動向を国会議員の活動なども含め解説いただき、また、明治大学政治経済学部地域行政学科教授の牛山久仁彦氏からは「町村議員の役割と議員報酬・定数の在り方」というテーマで、財政を理由に定数と報酬を減らすのではなく、それぞれの町村の民意を十分に反映できる定数を確保し、また、若手議員も含めた担い手確保のために、定数と報酬については別の問題として、それぞれに議論すべきである等の講演を聞きました。

各議員は熱心に今後の町政発展に寄与しようと聞き入っていました。



議 会 ト ピ ッ ク ッ ス

■ 三島中学校3年生「三島町次世代の議会」開催

1月30日、初めて中学校3年生による「三島町次世代の議会」が開催されました。3年生12名が議員となり、その中から4名が代表して一般質問を行いました。

その質問内容は、「水害対策について」二瓶仁美さん、「三島町のPRについて」鈴木啓生さん、「美坂高原の活用について」二瓶宗悟さん、「生活環境の改善について」本名円佳さんが4つのテーマで質問しました。議会と同じ流れで議長役の二瓶勝さんが開会を宣言して、議事録署名人を決定し、町長の挨拶を受けて一般質問に入りました。

それぞれの議員の質問に対して、役場の各課の課長は町議会と同じように答弁を行い、議員からの再質問にも答弁を行いました。町議員の質問とは違う視点からの質問に、町側も頭を悩ませたところもありましたが、中学生と一緒に三島町の将来を真剣に考えるよい機会になりました。



その後議員控室で議員との意見交換が行われ、「大変すばらしい議会でした。一人ひとりしっかりと質問することが出来た。」や、「若いうちから、本物に触れるということは大切なことである。今日の議会での経験は将来きっと役に立つでしょう。」との感想もありました。

来年度以降も開催できるよう、町でも支援していきます。



■ 三島小学校6年生意見発表会「三島町の未来への提言」開催

2月18日、三島小学校6年生10名が総合学習の一環として勉強してきたことを「三島町の未来への提言」として発表を行いました。

「今よりも活気のある町」というテーマで、6年生児童自ら調べた三島町の現状と課題から、「伝統行事を広めるために」、「空き家を有効活用するために」、「子育て支援」という3つのテーマに対してそれぞれに提案を行いました。中でも、空き家を観光客が立ち寄れるお店に改装するなど具体的な提案も行われ、参加した議員からは「とても大切な提案でした。私たち議員は、次世代の子ども達のために頑張ってまちづくりを進めていかなければならない。」等の感想がありました。

次は中学生となる6年生、中学校での「三島町次世代の議会」でのさらなるまちづくりに対する意見が楽しみです。



議 会 の 主 な 動 き

▶ 2020年2月 ◀

14日(金) 広域議会定例会（～20日）
23日(日) 若松三島会（会津若松市）
25日(火) 福島県町村議会議長会第2回定期総会
（福島市）

両沼地方町村議会議長会定期総会
（福島市）

27日(木) 議会全員協議会
議会運営委員会

28日(金) 早戸温泉つるの湯企業組合通常総会
29日(土) 大石田集会所落成式

26日(木) 会津若松地方土地開発公社理事会
（会津若松市）

27日(金) 両沼地方町村議会議長会監事会
（会津坂下町）

▶ 2020年4月 ◀

1日(水) 教職員着任式

7日(火) 両沼町村議会議長会臨時総会
（会津坂下町）

9日(木) 広域圏議会（会津若松市）

24日(金) 第1回臨時議会

▶ 2020年3月 ◀

1日(日) 福島県立川口高等学校卒業証書授与式
4日(水) 第1回議会定例会（～9日）
19日(木) 三島町生活工芸アカデミー修了式

※新型コロナウイルスの影響により三島小・中学校卒業式・入学式、三島保育所満了式・入所式は来賓招待なしで行われ、また、消防団春季検閲式は中止となりました。

新しい議員で開催される議会に傍聴においでください

6月議会は**6月中旬**に開催予定です。

※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、入場を制限または禁止することもありますので、予めご了承ください。

編集後記

私たち議員の任期が五月十日ということで、広報編集委員として発行する「議会だより」は、これが最後の号となりました。四年間ありがとうございました。

今年に入ってから、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、様々な行事の中止や延期が相次ぎ、寂しい年度末・年度始めとなり、更にはオリンピックの聖火リレーも中止されるなど、一刻も早い終息を願うものです。

一方明るい話題もあります。宮下病院機能検討委員会の報告書がまとまり県へ提出され、また、令和三年度のJR只見線全線再開通に向けて工事が進んでいます。さらに町の生活道路の改良も少しずつが進んでいます。

二月には三島町議会が全国町村議会議長会表彰を受けました。これは「政策づくりと監視機能を十分に発揮している議会」、「住民に開かれた議会」として他の模範であることが評価されたものです。しかし、町民の皆様の声はまだまだ厳しいものがあります。

より一層様々なご意見を議会にお寄せいただくことをお願いいたしまして、四年間の御礼と編集後記とさせていただきます。（青木 喜章）

議会広報編集委員会

編集委員長 小 柴 正 洋
編集副委員長 青 木 喜 章
編集委員 大 竹 克 昌
〃 矢 澤 昇
〃 長谷川 清 雄